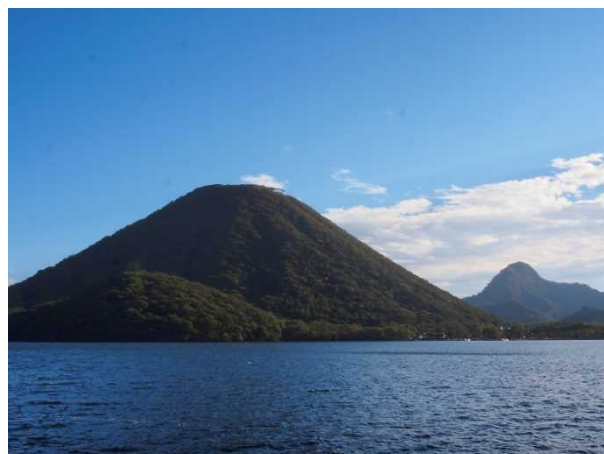


# 生物多様性ぐんま戦略

恵み豊かな自然を未来へつなぐ群馬県  
～生物多様性を守り賢く活かす～

平成29年度～平成38年度  
概要版



群 馬 県

# 生物多様性とは

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。

生きものは、46億年という地球の歴史の中でさまざまな環境に適応して進化し、3千万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり、全て直接に、間接的に支えあって生きています。

生物多様性はすべての生命が存立する基礎で、豊かな文化の源泉となって、将来にわたって私たちの暮らしの安全性を保障するものです。生物多様性には3つのレベルの多様性があると言われています。

## 生態系の多様性

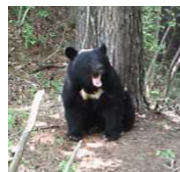
樹林、草地、湿地、河川、海といった自然環境や地形、気候などの条件が異なることにより、様々なタイプの生態系が形成されていることです。



芳ヶ平湿地群

## 種の多様性

動植物から微生物に至るまで、数多くの種類の生きものが生息・生育していることです。



ツキノワグマ



ヤマメ



サクラソウ



ミズバショウ

## 遺伝子の多様性

同じ種の生きものでも、遺伝子レベルでは個体によって違いがあることです。

ナミテントウは、同じ種でも遺伝子の違いにより色や模様の違いがあります。



ナミテントウ

# 生物多様性の恵み

私たちは、生物多様性の恵み（4つの生態系サービス）を受けて暮らしています。

生物多様性の恵みは実感しにくいものですが、無意識のうちにすべての人が享受しているものであり、私たちの暮らしは生物多様性なしには成立しません。

## 供給サービス

私たちの生活に欠かすことのできない水や食料、紙や燃料などの資源を提供することを指します。



高原キャベツ

## 調整サービス

森林によるヒートアイランドの緩和や土砂流出の抑制など、私たちの暮らしを守る働きを指します。



桐生川源流林

## 文化的サービス

自然や生きものに触れることにより、精神的な充足、科学や教育に関する知識などを得ることを指します。



## 基盤サービス

水の循環や光合成による酸素の供給など、すべての生きものを支える基礎的なサービスを指します。



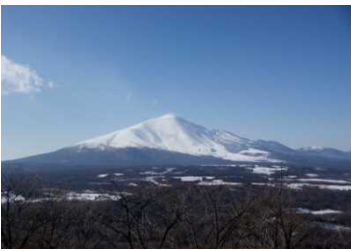
利根川源流とされる大水上山の三角雪渓

## 群馬県の自然環境の特徴

本県は、県土の約3分の2を占める森林や、流域面積日本一を誇る利根川をはじめとした豊富な水資源、海拔約130mから2,500mを超える高地までの高低差など、地域の特性に応じた自然環境のもとで多様な生態系が育まれています。

### 地形

本県の地形は複雑かつ多様であり、尾瀬ヶ原や覚満淵などの湿地や湖沼、「上毛三山」をはじめとする山々、浅間山等の活火山などを有しています。



浅間山

### 気候

日本海側で雪を降らせた後の乾燥した冷たい空気が山を越えて吹き下ろす「赤城おろし」などにより、防風垣「かしぐね」をはじめとする防風林が発達しました。



かしぐね

### 水環境

利根川は、県境に連なる山々からの小さな流れを集め、関東平野を流下し、太平洋に注いでいます。利根川水系には、多くのダムがあり、下流都県の人々の生活や産業を支えています。



野反湖

## 群馬県の生物多様性と暮らし

私たちの暮らしは、生物多様性とその恵みの上に成り立っています。本県でも、地形や気候の違いにより、各地域で産業や文化が育まれてきました。

### 農業と食料

豊富な水と長い日照時間、標高差のある耕地を活かし、多様な農作物が生産されています。古くから小麦の栽培が行われ、粉食文化が浸透しています。



下仁田ネギ



リンゴ



ひもかわうどん



焼きまんじゅう

### 絹産業

本県の蚕糸業は1200年以上の歴史を有しており、日本の近代化と戦後の復興を担った産業であり、地域経済の発展と文化の形成に寄与してきました。



富岡製糸場

### 温泉

草津、伊香保、水上及び四万の四大温泉に加え、千年以上の歴史を持つ梨木温泉、温泉マークの発祥地となった磯部温泉など個性豊かな温泉地が数多くあります。



草津温泉

## 基本理念

# 恵み豊かな自然を未来へつなぐ群馬県 ～生物多様性を守り賢く活かす～

県内の各地に存在する個性豊かな自然環境とそれによって育まれてきた文化や産業は、地域の魅力を形づくる「地域の宝」と言えます。

「地域の宝」は、日々の暮らしの中に根付いているため、地域住民にとっては、当たり前のよう  
に存在するものであるかもしれませんが。しかし、普段、触れることのない人々には、魅力的に  
感じられることもあります。

人口減少社会にあつて、今後も県民が豊かな生活を享受するためには、自然の恵みである「地  
域の宝」を再認識し、保全しながら利用を進めていくことが、本県における生物多様性の保全と  
利用の好循環を促し、豊かな自然を未来につないでいくこととなります。

本戦略では、生物多様性を保全しつつ、県民の理解を深めて持続可能な形での利用を進めるこ  
とにより、地域の活力増進に結び付けていくことを目指します。

## 目標と基本戦略

群馬県の生物多様性に関する目指すべき10年後の姿は次のとおりです。

### 目標1：県民の理解が深まり参加が進んでいる

県民一人ひとりが生物多様性と暮らしの関わりやその価値を認識して、生物多様性の  
保全と持続可能な利用に向けて自発的に行動・参加する状態を目指します。

#### 課題：生物多様性に関する認知度の向上

- ◆ 生物多様性の認知度が低い
- ◆ 生物多様性の恵みを受けて生活している認  
識が少ない

#### 基本戦略：生物多様性の価値の浸透

##### 施策の方向性

生物多様性の恵みやその重要性を再認識  
するとともに、行動につなげるためのきっ  
かけづくりを推進し、新たな生活・産業文  
化として定着させるよう取り組みます。

#### 県の主な取組

##### ① 尾瀬学校

平成20年度から県内小中学  
校を対象とした尾瀬学校補助  
金を創設し、尾瀬学校の実施  
を推進しています。



##### ② 環境学習の推進

##### ③ 生物多様性に関する情報の発信

## 目標と基本戦略

### 目標2：生態系の劣化が食い止められている

生物多様性の劣化要因を一定水準に抑え、劣化の深刻度及び保全の緊急性の高い生態系・生物種は優先的に対策が講じられ、危機的状況が回避されていることを目指します。

#### 課題：生物多様性の劣化の軽減

- ◆ 里地里山の手入れ不足
- ◆ 野生鳥獣による被害の増加
- ◆ 外来種の増加

#### 基本戦略：緊急性の高い保全施策の実施

##### 施策の方向性

希少野生動植物種の保護や劣化が進む生態系の保全など、緊急性の高い保全施策を着実に実施します。

#### 県の主な取組

##### ① 希少高山植物群落保全事業

高山植物をシカなどの食害から守るため、平成7年度から日光白根山弥陀ヶ池及び七色平に電気柵を設置しています。



##### ② 鳥獣害対策の推進

##### ③ 外来生物対策の推進

### 目標3：保全と利用の好循環への取組が進んでいる

生物多様性を持続可能な形で利用し、県民理解を深めて保全が一層進むという、保全と利用の好循環を生み出す仕組みを創出していくことを目指します。

#### 課題：保全活動を継続実施する人的資源・財源の確保

- ◆ 高齢化や後継者不在による人的資源の不足
- ◆ 活動に関する財源の不足

#### 基本戦略：生物多様性の持続可能な利用の推進

##### 施策の方向性

「保全と利用の好循環ぐんまモデル」の形成に向けて、地域の活力増進のための持続可能な利用を推進し、生物多様性の保全に貢献します。

#### 県の主な取組

##### ① 芳ヶ平湿地群ワイズユース促進

芳ヶ平湿地群の保全と賢明な利用を進めるため、ガイド育成をはじめとする環境学習のシステムづくりとアクセス歩道の再整備に取り組んでいます。



##### ② 生物多様性の持続可能な利用のための取組

##### ③ 地域資源を活かした観光地の魅力向上

## 目標と基本戦略

### 目標4：科学的知見に基づく中長期的課題が検討されている

モニタリングの実施によって得た生物多様性に関する情報の整備を行い、保全と利用の取組が随時見直されている状態を目指します。

#### 課題：生物多様性に関する情報の蓄積

- ◆ 生物多様性に関する情報が利用しにくい
- ◆ 科学的に調査、収集する具体的方策がない

#### 基本戦略：生物多様性に関する情報の蓄積と利用環境整備

##### 施策の方向性

生物多様性の保全や持続可能な利用に関する施策に役立てられるよう、保全や利用に関する情報を継続的に蓄積する方策を構築し、情報の適正な利用環境の整備に努めます。

#### 県の主な取組

##### ① 良好な自然環境を有する地域学術調査

自然環境の保全のために講ずべき施策の策定に必要な基礎情報の収集を目的に、県内各地で調査を実施しています。



- ② 生物多様性に関する情報の蓄積
- ③ 情報の適正な利用環境の整備

### 目標5：継続的な取組の体制が整えられている

県内各地の関係者間で情報交換が活発化し、人的ネットワークが拡大・強化されている状態を目指します。

#### 課題：生物多様性の保全と利用を着実に進めるための仕組みづくり

- ◆ 地域固有の問題解決の機会と仕組みが不十分
- ◆ 多様な主体の連携の不足

#### 基本戦略：戦略を着実に推進させる仕組みづくり

##### 施策の方向性

生物多様性は多様な分野に関連することから、県民、事業者、民間団体、教育機関、市町村、県などの連携及び情報交換や交流を増やし、戦略の着実な実行を推進します。

#### 県の主な取組

##### ① 環境サポートセンターの運営

環境学習の総合窓口として、ぐんま環境学校やこどもエコクラブの運営、自然観察会などを含むイベント情報の発信、各種相談への対応等を行っています。



- ② 生物多様性を担う団体の活動促進
- ③ 各団体の連携の促進

# 群馬県の生物多様性を守るために私たちが取り組むこと

## 1 県民

- 身近な生きものに関心を持ち、理解を深めます。
- 希少野生動植物種を捕獲・採取したり、傷つけたりしないようにします。
- 外来生物の被害予防のため、持ち込まない、放さないを徹底します。
- 地域の自然にふれあう活動に参加します。
- 地域の伝統行事に参加し、自然の恵みを活かした地域の文化を継承します。
- 温暖化防止に配慮した生活スタイルに取り組みます。



## 2 事業者

- 事業活動における生物多様性への影響を把握し、影響を小さくするよう努めます。
- 地域で作られたものを優先的に利用することにより、地域経済に貢献します。
- 周辺に配慮した緑化に努め、周辺地域の生きものに良好な環境を提供します。
- 生物多様性に配慮した製品・サービスの開発を行い、それらの普及に努めます。
- 従業員の生物多様性の保全や利用に関する活動への参加を推奨します。



## 3 農林漁業者

- 事業活動における生物多様性への影響を把握し、影響を小さくするよう努めます。
- 環境保全型農業に取り組み、環境に配慮した農業生産に努めます。
- 計画的に事業を進めることにより、持続可能な林業経営に努めます。
- 各種ツーリズムなどを通じて農林漁業における取組を知ってもらう活動に取り組みます。



## 4 NPO等の民間団体

- 環境学習や保全活動など、地域に応じた活動を継続して行います。
- 活動の実績を活かし、他の主体に対して提言を行い、取組を支援します。
- 地域の生物多様性保全活動に携わる人材を育成します。
- 地域の自然環境、野生動植物に関する情報収集に協力します。

# 群馬県の生物多様性を守るために私たちが取り組むこと

## 5 教育機関

- 生物多様性との関係を明確にして、授業を進めます。
- 他の主体と連携して、地域の生物多様性に対する理解を深めるような活動を実施します。
- 地域の自然と人との関係を学び、将来の姿について考える機会を提供します。



## 6 研究機関

- 地域の自然環境や生物多様性及びその保全に関する調査・研究を実施します。
- 調査・研究で得られた成果を、等の教育普及事業により発信します。
- 自然環境や生物多様性の調査研究を担う次世代を育成します。
- 自然環境や生物多様性の調査研究について、支援します。



## 7 市町村

- 生物多様性地域戦略を策定し、地域の特性に合った施策展開を行います。
- 生物多様性に関する施策については、関連部局の連携を強化して進めていきます。
- 公共事業の実施に当たっては、自然環境に影響の少ない工法を採用します。
- 地域の他の主体が取り組む活動を促進するため、情報提供等を通じた支援を行います。

## 8 県

- 戦略に掲げた理念の実現に向けて、様々な主体と連携して、取組を着実に推進します。

平成29年3月  
群馬県環境森林部自然環境課  
住所 〒371-8570 前橋市大手町1-1-1  
TEL 027-226-2872  
FAX 027-243-7702

表紙の写真 左上：県立赤城公園 右上：県立榛名公園 下：県立妙義公園

写真提供：芳ヶ平湿地群（中之条町） ツキノワグマ（林業試験場） ヤマメ（水産試験場）  
ミズバショウ（尾瀬保護財団） ナミテントウ（昆虫の森）  
大水上山の三角雪渓（みなかみ町）